

令和 5 年度地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 構想概要

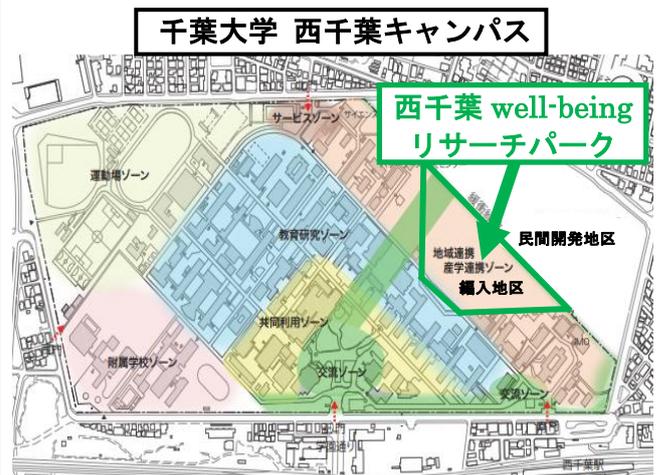
法人名：国立大学法人千葉大学
大学名：千葉大学

千葉大学の中長期的な発展に向けた「西千葉 well-being リサーチパーク」の重要性

「西千葉 well-being リサーチパーク」構想は、本学創立以来最も大規模かつ重要なプロジェクトの一つであり、本構想を早期に具現化し、本学全体の飛躍的発展に繋げていく必要がある。

西千葉 well-being リサーチパーク

千葉市の都市計画マスタープラン、千葉大学のキャンパスマスタープラン等を踏まえ、千葉市、地域住民、東京大学、本学等で構成される協議会により、平成 29 年に「東京大学生産技術研究所附属千葉実験所跡地利用計画」を策定。令和 8 年の街びらきを目指し、産官学連携の下で周辺地域と本学が調和したまちづくりが進められている。本学は、令和 4 年 9 月に東京大学生産技術研究所跡地の一部を購入し、千葉市等と連携した社会貢献等を進めるため、計画地に隣接するゾーン(30,859 m²)を「西千葉 well-being リサーチパーク」として整備・活用する。



「西千葉 well-being リサーチパーク」の整備・活用に向けた具体的取組 総括責任者<学長>

※<>は各取組の責任者

◆西千葉 well-being リサーチパークを中核としたイノベーション・エコシステム構築 <学長>

本学の研究成果等を活用して外部資金を獲得し、獲得した外部資金により本学の成長や発展に向けた投資を行っていく、西千葉 well-being リサーチパーク（以下、「パーク」。）を中心としたイノベーション・エコシステムを構築していくことが不可欠である。まずは、土地・施設等の貸付け収入等に繋がる企業や研究機関等の誘致に取り組むとともに、先制医療・ヘルスケアに向けた研究（AI 治療学等）、災害被害低減等に資するリモートセンシングデータ研究等の波及効果が期待される領域を中心に、マネジメント及び組織の機能強化等により大型の共同研究・受託研究、寄附等の増加に取り組む。また、地域ベンチャー投資ファンドの設立により、地域活性化に資するローカル・スタートアップへの投資を拡大し、大学の自己収入増加に繋がる好循環を生み出す。

◆well-being デジタルコモンズの構築、ビッグデータ整備・利活用等の推進 <研究担当理事>

産学・地域協働を展開する JST/OPERA 「ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装」の成果を積極的にパークの活動に活用し、以下を推進する。

① well-being デジタルコモンズの整備・運営

千葉市等の自治体の社会課題等も踏まえ、パークにおける well-being・健康関連の研究のプランニングを進めるとともに、パーク整備後のパーク内や近隣地域での大規模実証実験等に向けて、well-being・健康関連の研究、サービス開発等に係る体制整備、情報発信を進める。

② well-being・健康関連ビッグデータの整備・利活用

西千葉・稲毛区の 1 万人の住民追跡調査に向けて、近隣住民へのプレ調査等を進める。また、近隣の児童を対象とした疫学調査を実施し、将来的には、住民追跡調査データと結合したライフコースでの分析等も計画する。このような大規模データを共同研究や受託研究等の呼び水とする。

③ 西千葉 well-being リサーチパークにおける産学・地域協働活動の推進

JST/OPERA 事業の共創コンソーシアムの持続的な運営体制の構築など、産学・地域協働体制を整備する。また、本学の研究成果を基に自治体や企業等に対して well-being・健康関連のリカレント教育を実施するとともに、近隣の学校等に対してアントレプレナーシップ教育も展開する。